当別町の概況



北海道石狩郡当別町(H21.12.01)

- ◆人口:18,883人
- ◆世帯数:7,755世帯
- ◆高齢化率: 22.41%(H20)
- ◆面積: 422.71km²
- ◆気候(H19)
 - ·最高気温:33.9℃
 - •最低気温:-17.6℃
 - ▪累計積雪深: 691cm







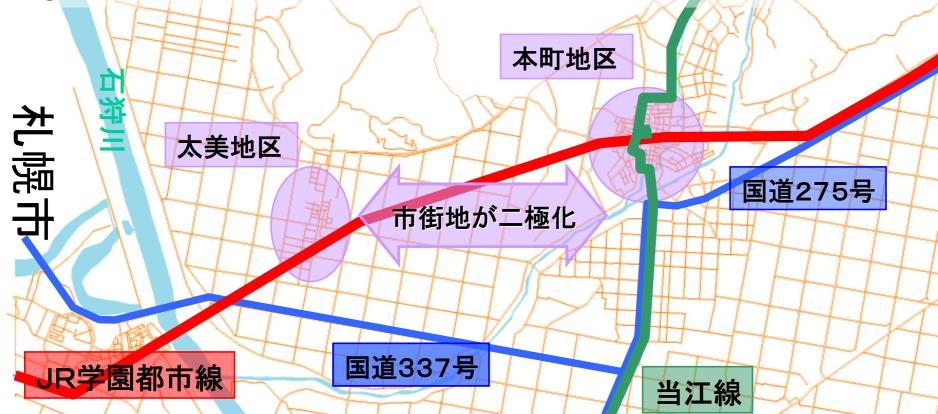




当別町の特徴

青山線

- ① JR(学園都市線)があり、国道が2路線走っている
- ② 市街地がJR駅を中心に二極化、それ以外は農地が広がり住宅が分散
- ③ 住民対象の路線バスは2路線、企業等の無料送迎バスが多い



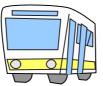
当別ふれあいバスの概要

同じような時間帯に同じような路線を運行していたバス



路線バス・福祉バス

(当別町) 対象者:一般住民



医療機関等送迎バス (北海道医療大学・ とうべつ整形外科)

対象者:患者•学生



地域限定住民送迎バスウェーデンハウス)

対象者:限定住民



重複している路線

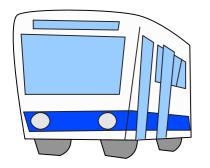


それぞれで負担している経費



利用者が限定されているバス

一元化



路線・経費を一つにまとめてみんなが利用できるコミュニティバスとして平成18年4月から運行開始

一路線200円

利用しやすいツーコイン 同じ路線ならどこまで乗っても 200円!

乗り放題の応援券

全路線・全便乗り放題の 応援券があります バスを住民に応援してもらう 意味を込めての名前です

無料チケットも発行

大学と医療機関では無料 チケットを配布しています 病院・学校利用者は無料で バスを利用できます

当別ふれあいバスの路線

とうべつ整形外科と青山線の重複区間を統合 ⇒ みどり野・青山線へ

医療大学とスウェーデンハウスの重複区間を統合 ⇒ 西当別・あいの里線へ

スウェーデンハウス

医療大

札幌市

医療大学ととうべつ整形外科、 福祉バスの重複区間を統合 ⇒ 市街地循環線へ

7路線・87便を4台のバスで運行開始

当別町地域公共交通総合連携計画事業

- ☆ 予約型深夜バス「SuiSuiふれバ」の運行
- ☆「とうべつバス通信」の発行

住民向けにバスや環境に関する情報を発信し、バス利用への転換を促す。

☆ 使用済みてんぷら油回収システムの構築

当別ふれあいバスで使用しているバイオディーゼルの原材料である使用済みてんぷら油の回収を全町的に取り組み、環境に配慮したまちづくりを進める。

☆ 小中学生向けモビリティマネジメントの実施

小中学生向けにバスの環境教育と連動した授業を実施して、公共交通への理解を深め、幼少期よりバスに慣れ親しむ環境を育む。

☆ 音声映像案内システムの導入

機械による音声案内を行うとともに、モニターから映像で情報を流す。停留所案内のほか、今後はまちの情報や広告なども流す予定。

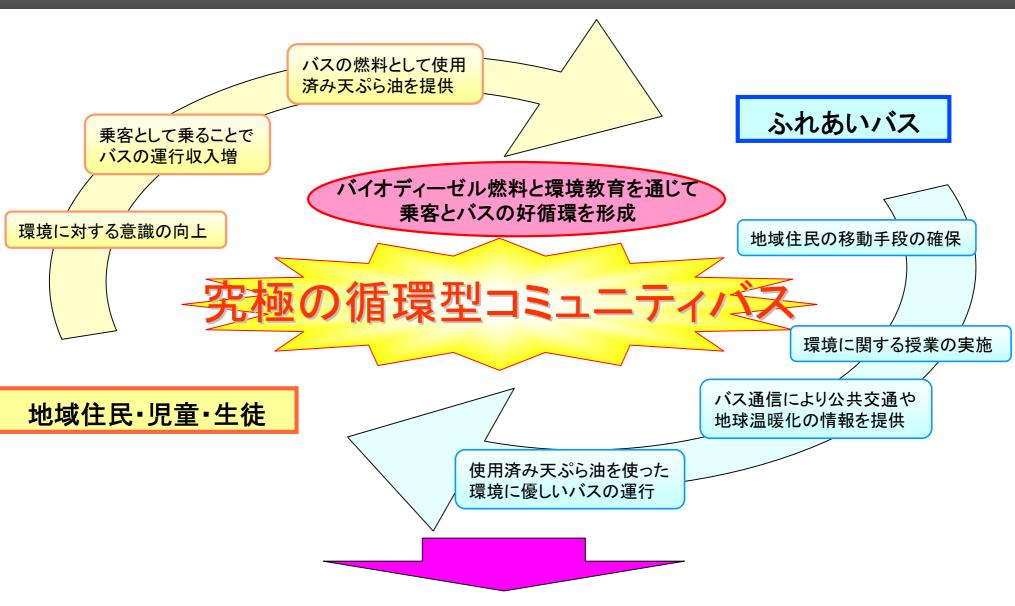
☆ バスまつり2009の開催

公共交通と環境に関するイベントを開催。約2,000人が来場。

☆ 物流システムの構築

バスを利用して、人だけでなくモノを運ぶサービスを実施。使用済みてんぷら油の回収 、町内図書館の図書返却サービス、バス停間の荷物の輸送など。

バイオディーゼル燃料の取り組み



官・民・住民が一体となってバスを支える

小中学生向けモビリティマネジメントの実施

実施内容

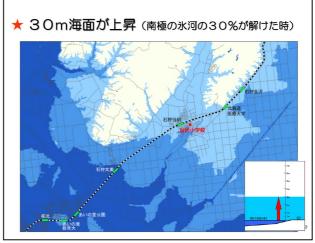
地球温暖化の視点から公共交通の重要性を説く「かしこいクルマの使い方」と、当別ふれあいバスで使用している バイオディーゼル燃料を題材とした「てんぷら油でバスが走る」の2つを中心に授業を実施。

実施結果

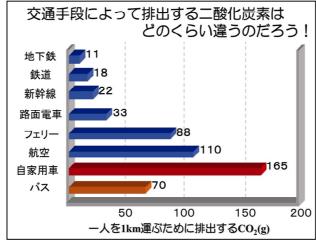
平成20年度は全4回、延べ241名の児童・生徒に授業を実施。













当別ふれあいバスの課題

●利用者数、収入、経費の比較

	平成18年度	増減	平成19年度	増減	平成20年度
利用者数	135,407人	3.7% ↓	130,301人	2.7% ↑	133,820人
運行収入	8,404千円	16.0% ↑	9,752千円	9.7% ↑	10,698千円
運行経費	51,048千円 (264,825km)	1.7% ↓	50,174千円 (260,503km)	0.3%↓	50,016千円 (275,764km)

利用者数は横ばいだが、応援券の料金改定のおかげで運行収入が増加



事業者の負担金上限額3,680万円と運行収入だけではまだ200~300万円の赤字となる。



この赤字を埋めるため、利用者を増やし、運行収入を上げることが、活性化事業の最大の目標